

公庫、ワイズに融資

淡水化海外事業へ200万円

沖縄振興開発金融公庫(川上野久理事長)は30日、海水淡水化設備を構築・販売するワイズグローバルビジョン(うるま市、柳瀬良雄社長)に対し、無担保無保証で自己資本とみなすことができた資本性ローンを適用し、250万円を融資したと発表した。

ワイズは2012年にパツテリー式の小型海水淡水化装置を開発。海水をナノレベルでろ過できるフィルターにより、塩分に加えウイルス、病原菌の除去も可能で、漁業、養殖業者へ販売してきた。

今春には産額約50のトキソクを製造し、1500のミニコンテナで設置も開始した。トラ

ンク型は1時間で海水40リットルをミニプラントは同じく最大1・5リットルを淡水化できる。

今年7月からはフィリピンで飲料水販売事業を開始。水道環境の悪い東南アジアの島国として目をターゲットに、3年間で100カ所の飲料水販売所「MIZU(水)ステーション」を設置する計画だ。販売所では現地産1リットル約60円の水を5円で販売している。

今回の融資は海外展開を本格化させるため、材料の仕入れや設備投資資金に充てる。

30日、那覇市の沖縄公庫本店で会見した柳瀬社長は「水の『スモールインフラ』の構築事業。世界中の水問題を個人

レベルで解決できると感じたい」と意欲を語った。